



漁 況 情 報

【7 月】三浦半島西岸：タコ好漁

7月に、三浦半島西岸でタコが好漁になりました。一昨年、昨年に不漁だったものが持ち直しました。10年前と比べると半分くらいの漁ですが、当時の倍くらいの値がついており、利益を考えると好漁だとの声が聞かれます。

【7 月後半】三浦半島西岸：サワラ

7月後半に、三浦半島西岸の定置網でサワラの漁獲が目立ちました。多い時には、1カ統で約4トン漁獲されました。例年は5、6月に多く来遊しますが、今年は遅れたようです。

浜 の 話 題

【7 月 1 日】小網代：体験漁業（アコヤガイ養殖）

7月1日、日本さかな専門学校（日本さかな専門）の学生さんたちが、みうら漁協小網代地区でアコヤガイ養殖の作業体験をしました。マガキの時とは異なる作業に多少戸惑いながらも、漁業者から指導を受けながら貝殻に付いた付着物落としなどに取り組みました。

【7 月 2 日】小網代：体験漁業（カキ養殖）

7月2日、日本さかな専門学校（日本さかな専門）の学生さんたちが、みうら漁協小網代地区でマガキ養殖の作業体験をしました。すっかり慣れた手つきで、貝殻や養殖バスケットの汚れを落とすなどしました。種苗のころから生育を見守ってきたマガキは大きく育ち、学校での調理実習の教材となりました。



黙々と貝殻掃除に取り組みます



クリーナーも使いこなせるようになりました

【7月2日】小田原・腰越：マコガレイ種苗放流

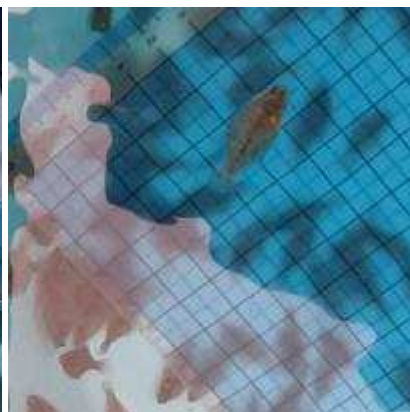
7月2日、(公財)相模湾水産振興事業団は、小田原地先及び腰越地先において、マコガレイ種苗を各5,000尾放流しました。大きく育ち、漁獲量が増えてくることを祈るばかりです。



船上からの放流(小田原)



船上からの放流(腰越)



マコガレイ種苗

【7月2日、3日】横浜：第10回海苔サミット開催

7月2日、3日の2日間、記念すべき第10回となる今回は、初めて神奈川県にて開催されました。これまでの海苔サミットは、全国各地の海苔生産者が中心となり、地域や産地の垣根を越えて集い、日本の海苔産業が直面する課題や未来について議論を重ねてきました。2014年より開催している全国規模の交流の場です。今回のパネルディスカッションのテーマ:海の変化に応える、これからの海苔づくり、に神奈川県海苔漁師の代表として横須賀市東部漁協走水大津支所所属の長塚光青年漁業士がパネラーとして参加し、日本の海苔養殖の未来について多角的な視点から意見交換がありました。



出席者の集合写真



司会を務めた、長塚光青年漁業士と奥様の明加里さん

【7月6日】横須賀安浦:マガキ天然採苗

7月6日、横須賀東部漁協所属、譲原指導漁業士(武丸)と柴崎青年漁業士(弥春丸)は、ペットボトルを用いたマガキ天然採苗器を設置しました。これから8月にかけて採苗し、8月25日(火)15:30から新安浦港で開催する「神奈川県漁業士県内視察調査(お知らせに記載)」で、採苗状況についてご説明頂きます。



マガキ天然採苗の様子



マガキ天然採苗器

【7月7、16日】佐島・葉山・腰越：マダイ種苗放流

(公財)神奈川県栽培漁業協会と(公財)相模湾水産振興事業団は、7月7日に湘南漁協佐島支所、7月16日に湘南漁協葉山支所及び腰越漁協立ち合いのもと、マダイの種苗それぞれ18,000尾、15,000尾及び17,000尾を放流しました。佐島では小田和湾の斉田浜で、葉山及び腰越では岸壁から放流しました。



活魚車の中の種苗



斉田浜での放流



岸壁からの放流(腰越)

【7月9日】小田原：ヒラメ種苗放流

7月9日、小田原市漁協、同刺網部会、(公財)相模湾水産振興事業団、(公財)神奈川県栽培漁業協会は、四者合同で、計46,000尾のヒラメ種苗を地先漁場へ放流しました。



ヒラメ種苗放流の様子

【7月9、14日】西湘地区：マダイ種苗放流

7月9日、(公財)相模湾水産振興事業団及び(公財)神奈川県栽培漁業協会は、小田原地先において計24,000尾のマダイ種苗を放流しました。また、7月14日、同事業団及び同協会は、計

50,000尾(岩15,000尾、真鶴町18,000尾、福浦17,000尾)のマダイ種苗を放流しました。



マダイ種苗放流の様子

【7月16日】平塚:マガキ天然採苗と昨年天然採苗したマガキ養殖

7月16日、平塚市漁協は、平塚漁港内にマガキ天然採苗器を設置しました。同漁港はマガキの付着が多く、昨年7月14日～8月に、角型2ℓのペットボトルの両口を切って5mm目合の網袋に入れて、マガキが付着する棚に吊るして採苗した所、マガキ種苗を多く採集できました。昨年採苗したマガキ種苗は、籠に入れて育成し、約1年経過した7月16日には50g前後、最大で97gに成長していました。更に半年後の冬に出荷サイズまで成長すれば、ワカメに続く海業体験の養殖対象種として検討するそうです。



設置したマガキ天然採苗器



昨年採苗した1年後のマガキ

【7月17日】長井：養殖コンブ・畜産研究に協力

7月17日、長井町漁協は、県畜産技術センターが取り組む研究「肥育牛からの温室効果ガスの発生を低減する飼養管理技術の開発」に協力し、天日干しの養殖コンブ約70kgを4月のワカメに続き供給しました。養殖コンブは、組合所属の複数の漁業者から集荷し、組合一丸となって、取り組んでいます。

関連記事

2026年5月号【4月下旬】

【7月20日】漁師.jp：漁業就業支援フェア

7月20日、(一社)全国漁業就業者確保育成センター主催の漁業就業支援フェア2026が東京都港区の都立産業貿易センターで開催されました。本県からは、小田原市漁協定置部、住吉漁業(株)、県漁連及び神奈川県が出席しました。当日は酷暑でしたが、前年よりも多い256組(前年167組)の来場がありました。本県の出展ブースには21組の来場があり、漁業就業に対する熱い想いを語られる方が多くみられ、今後の漁業就業に繋がることが期待されます。漁業就

業支援フェアは、次回は来年2月に開催予定ですので、就業者を募集されている方は、ぜひご利用下さい。



漁業就業支援フェア 当日の様子

【7月21日】長井・佐島：トラフグ種苗放流

7月21日、(一財)横須賀西部水産振興事業団は、長井と佐島の上に位置する小田和湾において、長井町漁協と湘南漁協佐島支所の立ち合いのもと、トラフグの種苗を計9,000尾放流しました。



活魚車の中の種苗



小田和湾での放流



泳いでゆく種苗

【7月21日】湘南地区：マダイ種苗放流

7月21日、(公財)相模湾水産振興事業団及び(公財)神奈川県栽培漁業協会は、茅ヶ崎地先で計25,000尾、平塚地先で計13,000尾、大磯二宮地先で計15,000尾のマダイ種苗を放流しました。

【7月22、23日】長井、柴：トラフグ種苗放流

7月22、23日、当センターは、長井町漁協及び横浜市漁協柴支所の立ち合いのもと、長井漁港(井尻地区)及び横浜ベイサイドマリーナ横浅場において、トラフグの種苗をそれぞれ6,000尾及び9,000尾放流しました。年々増加している本県沿岸のトラフグ、大きく育てて本県で水揚げされる代表的な魚種のひとつになることを期待したいです。



活魚車からホースで放流(横浜)



ホースの中のトラフグ種苗



トラフグ種苗

【7月22日】走水：海ぶどう

横須賀市東部漁協走水大津支所所属の長塚良治指導漁業士は、海ぶどうの陸上養殖を営んでいます。7月22日に種苗を植えつけ、今年の養殖を開始しました。この養殖は今期4年目になり、毎日手塩にかけて育てて、秋頃まで出荷が続きます。海ぶどうは栄養価も高く、ナトリウム・カルシウム・マグネシウム等ミネラルもたくさん入って健康などにも良いとされています。独特の見た目とはじける食感、広がる磯の風味が特徴の食材です。



海ぶどう

おしらせ

はまぐり、サザエ等を採らないでください

海水浴、磯遊び等で神奈川の海に来られる一般の方々には、はまぐり・アワビ・サザエ等の貝類、イセエビ、タコ、ナマコ等共同漁業権の対象となっている水産動植物を採らないでください。これらを採ると漁業権侵害となる恐れがあります。ほとんどの海域で共同漁業権が設定されており、漁業者は生活の糧として、魚介類を大切に守り育てています。

県水産課

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/docs/yugyo/isoasobi.html>

【8月25日】漁業士会：マガキ養殖・天然採苗等の県内視察&交流会

神奈川県漁業士会では、8月25日(火)15:30から、横須賀市東部漁協の譲原指導漁業士のマガキ養殖と天然採苗方法、ワカメ種苗生産等について視察調査を実施します。漁業士会員だけでなく、興味のある漁業者や水産関係機関の方々も、ぜひご参加下さい。

問合せ先

水産技術センター相模湾試験場 普及指導担当 荻野

TEL：0465-23-8531

【～10月19日】長井～腰越：アオリイカ禁漁のお願い

長井町漁協、湘南漁協佐島支所・同葉山支所・同小坪支所・同鎌倉支所及び腰越漁協は、すべての釣り人の皆様に対して、8月1日から10月19日まで、同地先におけるアオリイカの禁漁について、ご理解とご協力をお願いしています。

これらの組合では、アオリイカ漁をこの期間に禁漁とし、併せて産卵礁の設置等を行い、アオリイカの資源保護に取り組んでいます。

遊漁者・遊漁船の皆様

アオリイカ資源保護

へのご協力をお願いします

実施期間

8月1日～10月19日

近年、地球温暖化による海水温の上昇に際し、アオリイカの産卵に不可欠な、アマモなどの海藻類や、カシメなどの海産物が消失する、「磯焼け」が全国的な問題となっています。三浦半島近海でのアオリイカ資源が減少傾向にあるため、漁業者では「人工産卵礁の設置」や「ウニやアイゴなどの食害生物の駆除」などの漁場保全活動を進めています。さらに、三浦半島西岸3市1町の6か所の漁業協同組合・支所が協働し、下記期間を「**アオリイカの自主禁漁期間**」と定めました。

遊漁船・貸しボート・カヤック・SUP・岸から等、**すべての釣り人の皆様**にも、この期間の禁漁へのご理解とご協力をお願い致します。

実施地域

「長井町漁協」から「腰越漁協」までの「共同漁業権内」
(横須賀市長浜海岸から鎌倉市腰越漁港まで)



長井町漁業協同組合 / 湘南漁業協同組合佐島支所 / 湘南漁業協同組合葉山支所
湘南漁業協同組合鎌倉支所 / 小坪漁業協同組合 / 腰越漁業協同組合

協力お願いのポスター

【～10月30日】県：資格取得支援事業

県水産課は、漁業就業・定着化のための資格取得支援事業を実施しています。

漁業に就業して3年以内の方を対象に、様々な資格の取得に係る費用の一部（補助率は1/3以内、補助上限額は5万円/件）を補助します。

活用を希望される方は、就業地域の漁業協同組合を通じて交付申請書類をご提出ください。なお、県での書類確認・交付決定後に、ご自身で資格の講習等にお申込みいただく流れとなりますので、受講予定日から余裕を持って必要書類をご提出いただきますようお願いいたします。

詳細情報 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/syugyou/r6shikakusyutoku.html>

問い合わせ先 環境農政局農水産部水産課 水産企画グループ

TEL : 045-210-4542

漁業就業・定着化のための資格取得支援事業

新人漁師の 資格取得を支援します

対象者：県内の漁業に就業して**3年以内**の方

条件：取得後、**県内で漁業を3年以上継続**すること

※ 3年以上継続できない場合は全額返還となります

補助対象経費

○ 次に挙げる資格の取得に係る費用の一部

- ① 小型船舶操縦士免許（湖川小出力限定、特殊小型船舶操縦士を除く）
- ② 中型自動車運転免許
- ③ フォークリフト運転技能講習受講料
- ④ 移動式クレーン運転士
- ⑤ 第2・3級海上特殊無線技士
- ⑥ 玉掛け技能講習受講料
- ⑦ 潜水土

※ 補助率は1/3以内、補助上限額は50,000円/件

※ 予算の範囲内での支援となります

※ 期間中であっても、予算がなくなり次第、事業を終了します。

※ 補助対象経費の詳細は県水産課のホームページを確認ください

交付申請期間

○ 令和8年5月21日～**令和8年10月30日**必着

※ 就業地域の漁業協同組合を通じて交付申請書類を御提出ください



申請先・問合せ先

神奈川県 環境農政局 農水産部
水産課 水産企画グループ
☎045-210-4542

漁業就業・定着化のための資格取得 検索

